

○ 委員長報告

6月定例会本会議で報告された総務企画国体委員長報告は、以下のとおりです。

平成29年6月定例会

総務企画国体委員長報告

報告いたします。

当委員会に付託されました議案の審査結果は、お手元に配付されております委員会審査報告書のとおりでありまして、いずれも原案のとおり可決決定されました。

以下、審査の過程において論議された主な事項について、その概要を申し上げます。

まず第1点は、自動車保有手続ワンストップサービスシステム整備事業についてであります。

このことについて一部の委員から、自動車保有手続ワンストップサービスシステムを導入する目的と時期はどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、自動車の登録手続きにおいては、警察署における保管場所証明手続き、陸運支局における検査・登録手続き、県税事務所における自動車税・自動車取得税の納税手続きなど、様々な手続きが必要である。

このような繁雑な手続きを、より簡単、便利、迅速に行うことができるよう、自宅や事務所において、全ての申請・納付手続きをオンラインで一括して行うシステムを導入するものである。

県としては、平成31年1月からの運用開始を目指して、速やかにシステムの構築に着手し、県民の自動車保有に係る手続きの負担軽減や利便性向上、さらには、申請窓口の混雑解消、県税申告の審査事務の効率化に努めていきたい旨の答弁がありました。

第2点は、鉄道施設のバリアフリー化についてであります。

このことについて一部の委員から、JR四国の駅で順次バリアフリー化の事業が進んでいるが、今年はいひめ国体・いひめ大会が予定されており、県はどのように対応しているのかとただしたのであります。

これに対し理事者から、1日当たりの利用者が3,000人以上の鉄道駅のバリアフリー化工事として、JR四国が順次実施している新居浜駅、伊予西条駅については、地元市と連携して支援しており、国体までに完了する見込みである。

今回の補正予算では、新居浜駅において、色覚異常の利用者に配慮したLED発車時刻標、視覚障がい者等の利用に配慮した警告放送設備・音響音声装置などの整備を支援したいと考えている。

なお、鉄道事業者は、利用者数にかかわらず整備を進めているところであり、県としては、今後とも事業者や市町と連携してバリアフリー化に取り組んでいきたい旨の答弁がありました。

第3点は、国体リハーサル大会開催状況を踏まえての課題等についてであります。

このことについて一部の委員から、これまでの国体リハーサル大会の開催状況はどうか。

また、課題等については、国体本番にどのように生かしていくのかとただしたのであります。

これに対し理事者から、競技別リハーサル大会は、競技会運営能力の向上及び開催機運の醸成を図るとともに、これまでの準備状況を検証する総点検の場として、28年度は各地で34競技42大会、29年度は5競技8大会が開催され、7月までの間に、ゴルフを除く全競技50大会を開催する予定である。

県では、全ての大会において実行委員会職員が現地で開催状況を詳細に確認し、気付いた点をフィードバックするとともに、会場地市町と競技団体が、国体本番に向けた課題への対策等を協議しており、今後は、これらの中身をさらに精査し、より良い競技会運営となるよう関係機関と連携して取り組んでいきたい旨の答弁がありました。

このほか、

- ・核燃料税条例の改正
- ・ふるさと納税
- ・鉄道による交通ネットワークの整備
- ・今治市への大学獣医学部の新設
- ・えひめ国体後のレガシーの活用
- ・天皇皇后両陛下愛媛県奉迎委員会への対応

などについても、論議があったことを付言いたします。

最後に、請願について申し上げます。

当委員会に付託されました請願2件については、いずれも願意を満たすことができないとして、不採択と決定いたしました。

以上で報告を終わります。